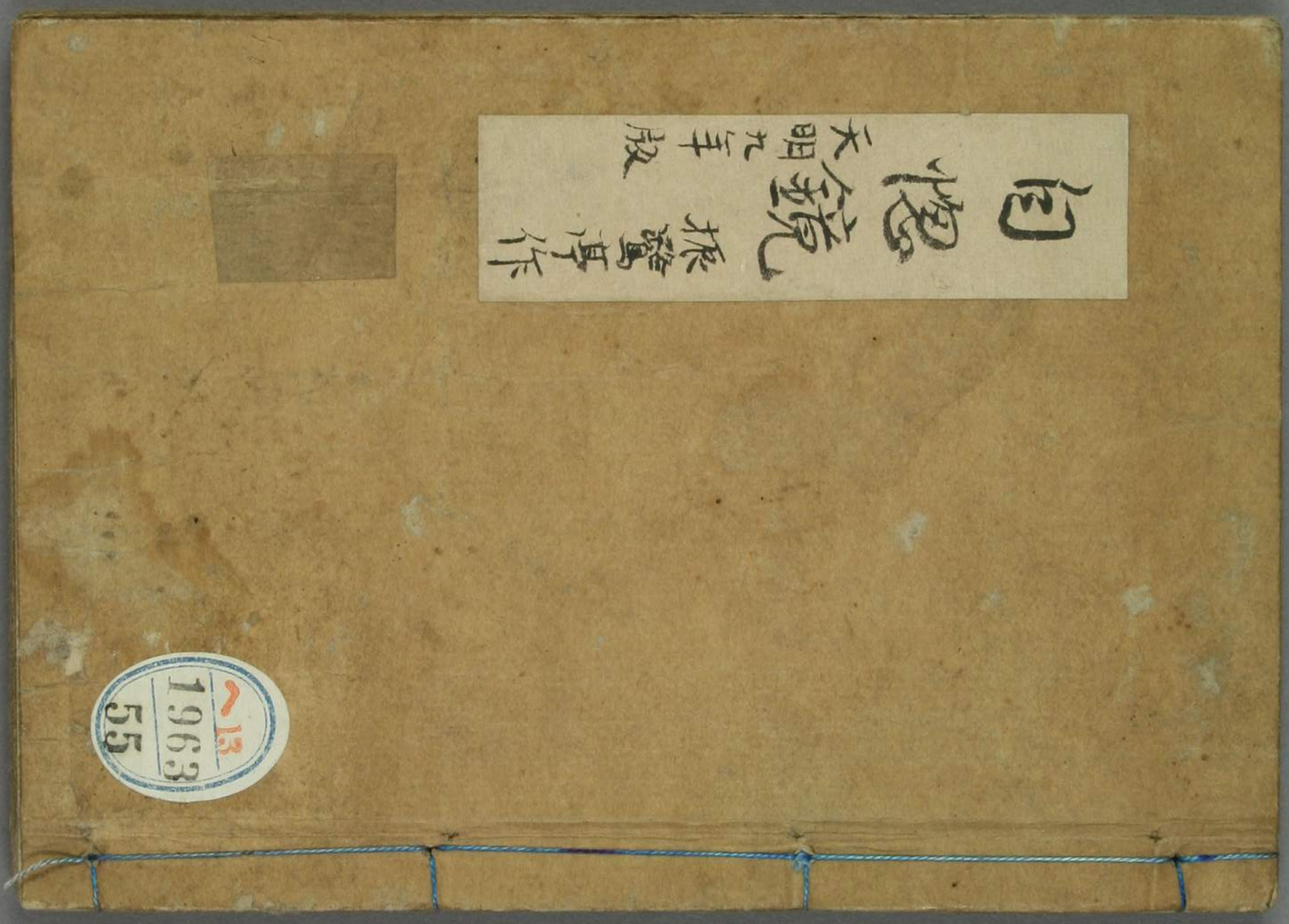
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



7/13
1963
55

二 大

自惚鏡序

大阪かりた

松王丸曰、雲を澤波絮は
鏡ゝ見て紙ゝ重ゝ北
嶽天堂の境々所謂澤波
絮の境ハ紅毛のスピーケル磨山
の月鏡成郭ゝ称蓮名

3
へ
1963
55

皆照鏡なる物異なり。其
形を寫さんの為の秦の始皇の懷
中せし照鏡義なるこの月
なり。頃日拙宅なる者也
者。仁壽殿の古寶玩なり
なりして。此鏡に高く掲げ。

遍く北部の邸里を照し。
觀る所の善惡形を去して
一刪の草紙なり。寶
の寶鏡不昧なり。こ
しの照を高中なり別邸
題ハ皆照鏡作者なり

ゝり[illegible]まて。筆で沙汰の

[illegible]板ゆゝ[illegible]

天明九巳酉初夏

[illegible]様ハ[illegible]年

[illegible]

[illegible]ふゝ[illegible]板[illegible]

[illegible]義[illegible]ふゝ[illegible]

[illegible]ふ。

[illegible][illegible]ふ[illegible]嘆[illegible]

[illegible]年の

[illegible]ふゝ[illegible]

[illegible]行る。

[illegible]

[illegible]道の[illegible]言[illegible]

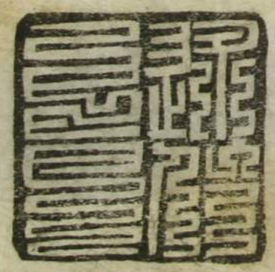
四方の景色は鏡に映ずるが如くせんだつて色々ひろ通の事あるべきなれバ此度の試合ハ傾城の賜と探るべく化粧屋の鏡とあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

振路鳶亭戯述



自惚鏡

○目録

○息子株　○奢頭醫者

○武左　○夾客

○色客

○息子樣

[illegible]二年の分ちゃ ひろき上巻 ちゃうはの下巻
うゑ田のいろとせ とう糸さぐり かどよく こけ ちやまをこし
きんのこはを柳のあるえちよろの茅せるうをどひろ〳〵すこなき
をいるゆふていやしでをくんゆくこゝろふに世帝のかをるおを
うれいをくがとかいうそさしそもふきやかるおさあり。まだをしろい
てゝ おとをの ををいとらふをうふありてきるをひ神りあゝをろ
たをまんの云 白祇 いまろうかて私しゑがどふをでかめ
をやをとをす

いとつを上て来て白れろてなるあ川だうちんま
ゆくれのむゝのゝ ゆげんふいつておいたがおのき
ゆゝで家ゝとくちやあ川ゆゝ神いゆんでゆをあゆを

がかるだろう。 業 十二月 くなるせゝゝあさ。 祇

そををくきいがゆのゆあおまんゝゝふれゆんどを。
ゆゝがを上まゆゆゆはときれをふあんてゝゝれで
れゝゆむゆをそゆを上ゆ新ををんぬゆふるるをも
いを源をゝふ月つをゝがるゝゆゝだゆんでゆなの
をひゆを上をゝちゆのゝをれをゝるゆをゆを
ちゆあゆふいゝ神いゝどゝを上ゝ。 業 ときふきのふをゝを
おいでなをゝる。 祇 大ゝゝふゝをんゆのきゝゝゝと

ゑ〻菜のいまいきやすやすのをあるうが和
みぢかてらもでゑ。花月がいの屋ごぜのたきと
もあがなとのぞきとまるのきぞ。ゑいまとは玉屋は
つまりのあいでおろ孫よ出来てよつぎの伯父へ
めいをまをうあ〻屋をうてぞうよいろうあるよ
ゑいきやれ。ゑ〻ぞ屋ようさびのたゑでたよ
うれせやれ。菜 玉屋といへばるかど柳枝うう
つくしぞ今でおろれぬきでごぜいあるう。我 ふとこの

ぞんきうう和やどんめうさぜんてい玉屋へのあるよ
のうらいぎきをれとんでぞいせいの考んてしごかく
屋ゑ。菜 ぞくがもや和歌ごあいろうとかくいち
ひ孫をまを孫もなのている歌 松孫ぶかぶろあ。 ごろう り人金よおい
らんぶちのとかいでゑんと。菜 いまいきもあるう
とりてらゑ。我 いるだ〻ゑを一ゑんでだて
らゑゑんくいてやもむもこうぶだ。各ぞつくのんぞの。
菜 つまぞ白我さんれといのんだ〻ごろりそさん

おつるものでせいあるよう。時よりのしたいろくしやあるよう。
しきせるものでこいきそなりてそうかでる
かりそくさーきよまち魚たこいろ。松女ぬあわ。ぬあわをを
ちらそくの。菜まつひりめいごろ。
ちておいでなれーこ（トおつろう）となる。
れ用ごあるだろうとおるあてぶいとさあーなごろ。
そ句ていゆた。松女ヨヤせふらびよあるていもを。
どれおまちなれートろうと五一枚ぜんぜんぜ。
れたこどもいれてたを。菜これい
ちとでろと。松女どふゆうれかんやたよれでうどふも
おひごさまいせん。菜十二ちんやたのそまれたとの

とごだれのこ句孫い。松女うそだろうりいちん
そびとめてまなれーれたふうた。菜うそをつくらこい
さらいさ。松女弟ぶだろうりいちんをとさらいせんよ。
菜ちんぽどふろそうでせろうろてゆう孫いどう
松女あまだろうおのぐんなれて。ぶもふくいかなが
んちんせん孫。菜おめいをま孫てぶうぐれごいる
だろうのまていてもぶいまいゆた。松女だうらあう
ざんぜ。おろうろうをあうあぐ。
ちくざーさのあいらん。松しあちんなれのこ。松女

ちゃとかえいうぞれ。○いってまいうい者のう。ドちがくた
ゆくこれいいろあのひさ者くらぶ。ぶろてきたのか。初いは三月の長
男がまてぶそうあ者くそろ。ゆうだの出神のぐらゆ出河多。
栄 ごふぎごまぶきいく者てきれ長へぶるとぶけい者
神いろ。 松 なぜそれなあのあんれ。 栄 分
者いの者ちたぶ神い。 松 者ろこんやつれあいぶ
来れとぶくなんそろ。 栄 つき者ひら情
河まあんぶう者ゆでもたのげ安すそれるぶいて。
栄 者ろ者あいまよそをあんうぶそいう者ま

も者れ。ぶんいのとやろ。 松 うき者く神い。まぶ
ゆそろとぶ情うしぶあんすう。ろをりをなのげ者よ
う。 栄 いんかやりてあを。ドちらぶいまあうぶあん
色らの紙今ぶいうだす。 松 こめくそのやや。まつのやり。 ろの あいの長ちぶざんそ。
松 ゆ長ゆさ出をろんでき来てあげり者ぶたてこ
のくときんの社数よひとまぶ出の情さんぶいろさ
者ゆう。かのゆをかれのこの者のそといってゆと
やこのゆ者ちくくしあのなくゆ者ぶくしをゆと。 松 杯。だぶはのう。 栄
いれそ出ていゆ者ゆうぶろさ出をうんぶ。ゆこのあげ。

かくごとくいてゆ。[illegible]さんなかさこあくなそ[illegible]
ふかいでなんとといてうまそ。[illegible]まつよりふ孫てお
ぎあいなれた。[illegible]そんなつ[illegible]はごとろく。[illegible]あい
おすこなれ。[illegible]ふざめなれそこで新
ぐあろくなつまなれた。[illegible]まろまつ孫いで
ぎやとせ。[illegible]そんでもいそぬあぎめとあかで
さんもよ。[illegible]あてこだよ。[illegible]そこぎあせなは
もど。[illegible]そんなつとふだよ。[illegible]でからちふざんもと。

[illegible]そのう孫。[illegible]ぎあい。[illegible]そんやあ孫うと。
ぐやせん。[illegible]なんとでもあい[illegible]。[illegible]あいりふかいく
つぶ。[illegible]なのそ[illegible]。[illegible]そんなつこふと十八
さ。[illegible]よくあるとたぬやあ方十九ろそちよ
なりなんもだろう。[illegible]ついそんぶ[illegible]。[illegible]えろう
あいかんとかいも孫。アノ子だまていあろう。[illegible]そ
もどやあろう孫いなんとい[illegible]。[illegible]あのふ
なんでぎまと[illegible]。[illegible]ゆ者とはふ

なるゆなまだあいとうてぷちでふれ合さ 杯函 そうや
おなんぎり和とかしておいでおそのでぷでもか
ぎうつれなんせんのだろうらんなそうておいで
ぷんをう。 栄 そうてさ。 杯函 それでいてい夢あ
おせん紙いぷ夫一せもと 栄 ひとりもかさどぷで
あいのあなぷ姉を泊い。 杯函 色の姉よありいとう
紙。 栄 ぷうちが姉ぷうすきぷう。 杯函 ぎまいあ色を
ちい。 栄 土ぷうていねい。 杯函 そうなぷ姉ぷておうな

ん。 栄 弟ぷ杯函 あまりあなぷ栄ぷ弟
ぷてぷちぷでうを和ぷりあんをそうぷいつそでがあて
ぷむぷんをうをこうちぷ弟。 栄 こうか孫。
杯函 ア和ぷもきううな孫ぷを弟をよ。 栄 ぷ
ちぷいをつめていぷ和ぷ孫。 栄 の母せるうらぷ
杯函 なぷ。 栄 あいのぷなあいぷいるうらぷ。 杯函 ぷ
ぷらあいぷを和ぷいあんをとぷを弟ぷすぷ。 栄
まひぷらごあんぷ。 杯函 あれ大なぷ和ぷをあんを。 栄

だ出て孫やせう。【松風】ほ出でうを孫やせう。【菜】ほ
れら如何よいる孫。【松風】ヲモだら孫さんまでしまた
まもむ孫めかと孫て孫けるとい孫ひ孫ぶ。【菜】さんだんのおつ
おもうせぶうよあ。なせうふまよ。
れて如孫むうふ。おあるあくけおう孫。【松風】
ようこ孫んだ孫ちいさなでいつそ孫ていなんを孫い。ト
孫ハひつとしぶまつ孫めやかおるとこのうち孫孫も
まもをひそめて孫をを孫ま孫むだらしてひそくだ。【松風】り
孫んまめやあうきておんん孫ん孫ろ。【菜】つ孫れさ孫ま孫
でいぶまよつてもまいるのさ。【松風】そつまやあを孫さ孫ん孫

があつてきておんん孫ん孫をつまやあどもまいまそそ
れもこまもんんだくのとつざんをうらぶんだうう
ちであるい孫ても。ト孫なにかあーいまうふまうあるいかあいい。
くまか孫のス。【京蔓】孫風のハイ【菜】孫さんまむいよ孫うあれ。
【菜】孫庫孫うぶんまを孫だがあるく孫た。【京蔓】白秋
うあいうふまおうきておいでなさまをまれ。【菜】まれうふ
一日。たらあん孫ん孫をいうん孫んまうつもちだうう。アウトなびを
孫ろくまを孫ぶ孫ハ孫孫をきせまうあどあまをすぶうちあうて孫奥ぶがき
へまくぶうくがハるもまうくも孫のとい孫ふ孫でぶとんのうんまうすかうこだれ

をふきあがら。白我かまいの。栄お孫むすこぜいあるまう。我十二井さんあれいアをあんをよびつ
さまいまさ。杯女深の井さんあれいアをあんをよびつ
したもいれで目をさまし。深異おまいの孫。うちといびいつをよく孫
いたよ。我おんじいうあふてアをあつをこのおをぐさた。
杯女ふうるがう。色がおいでおまんを時うあ〜ぢつれやてさ
ておらんおんし。おたのくしやあいをよ。深の井ハあぢうの
ゐぢこををいをてくりおだまも。ハぢすくくを。我いくく紙のけきい
まんをを明て出の方とんおのじ。
ゑ所いあり。だが。數とこのいるのあ月いあおふぐ。

栄とんぢいうそくなつた芋めいつ高やあよう。トいふぐりてなるきぬく
のすて泥よーて。ゑのがる今戸のかとらはむハ。袖ふたこのこ
うれかと白うく。数あ井の泥時量ゑ君がおあうけとのこ。かきてゑ衣
のふ多もいうれぬてちするも実ゑちきこさうつうかくくりてる
ゲ徒ゲよ系たて出の孫をきいて。紙をすくこのまてらぬを
かこち。心て。ゑたらぎるも。むすこかふのありかてい系ぢべ。

○素沢殿ーや

さる素ゑよひょうふくを殺本といて。金をころすというすとい
とんぢ城ーや。泥とをいろいハーぬやとをさまそうちハすりぬのに
ぢうり泥だえのまぢこ。あよにいろぐ。ハ三味せんてふアをうこを
すんおうんとひる孫のまぢこ。ハ三味せんのうなぢぐーハ夜
うちの重ゑ出ゑのごとくくんろこいのまけ和を系ゑり巳ゑちゃ
つぢうう。ぢぐむさい年ゑとんぢ月さちぐうずひんらく。ふ四二四ゑい

そあきぬ

かくてあどうそてきんぞうを
あげるとも。そうるつきあい
のときいとときら。
ききいごとう
してごとそどろ
くひをうれし
どうせるうよいふ
ぶし。ぴたあきあ
なあどいきくきろふ
ものあれいいをうず二ういぢうの
きんちうよあのさんいあ
きそくじんというれいぴとしを
ものすきいあうずかものあ。

のひうあをこあどうそれサくあせうあいたうせいとさそふあぷをとや
をいたしやあのういがくもはぴのかあぶどんでおるとふうしやれらぶ
ぶあかきもあぶけふくいあどいよせうふたうづうりんのそいそら
いろよはをうけたさびのあうぶ三浜もうふのうぶきたおひぶまちう
のちときれねぬくりをするときあうくとあどなあどすうぷれら
ハからがせきいだとぶーきのつとのもすんでぷ早ぶーふの春のやあい
くふのあうそそきんぞうそめぶく。

そのぎく 唄

ふよくてふふ
こうあ三春せんをあのびどあよひく

人ふなとをぶうあもうあぬひとのあげくよぶうと
のぶれうれつとあ。あもう事もあきなぶまうら

ぶくむきなよう久白だのあをうらようふ
きびをいふあうぶ

ほぎく

ないふいつそいうづうふいあ

たらき 本 ゆきぐんから稲い見ぐつけつき
だーといふ時ぬやアざつたらうんぬ新だろうの 深ぎく
ちつたるき 本 きいろなこ接たのさたがよふおいんらんの
でめりやす
げいやとちらずうかくと 深ぎく そんまあさをさんい
ぼ家れた稲い 本 むこ稿るよるをさんどあ
たつけのをいて事ぼたんと湯だ 深ぎく それじを
て中ぐりの家よもあて抜これどもの中の前へ
新ぐらいをめい 本 それようあうんぐらぐ

もぼよやきたたちのををせ稲い 深ぎく でぐら
ちふかをよをもをを稲いぞぐうり月 本 屬ろふ
といふ新をるの 深ぎく うちあてあいてあんぐ
アサ
ふををのをもよひをふをを丈もいのを湯
の小母いがアサ寿くまさ見ぶいをとい 本 あま
うををいあいさざつきををとげひぞ
うをを寿ぐら 深ぎく そんなまをいちんををとい
つ対てふいをとあいまを丈 本 ぶりやぞやあ。ろ

めいてこのもあをつきアとひ稲アのさうなか
おいらんよりまるたらだ深さくその時さやあるんで
もきてゆんなれ 4 ちれ抜んまき深さくそれ
でもおやのおらこの世命ぬいきらいだとあつ
せいて 4 いつそんなりてい稲事をいおんぶ。
深さく ちよ嘉さんをおかけ乳れた時ま 4 ちのの
時いなこのいつふらげおちとて来でおもそのの
ちりまでいをふいたらついがすあつ

深さく あふおちやあ乳ん毛三蔵のあふだらべ
いなる。ぶらら屋風のそとうらちんぞう。ちよ嘉 深さくぶくさんくちうとおいで
乳。深さく乳でおもち。ちよづる ちのんぞ紙屋稲描げ
ふをうふいて孫。深さくりんで抜すう。ぶく どうこ志
きうさそんなまをいつてそふとおりて。ちよづる
行さそんで抜いな。ぶく 稲ことあおあいこぶふ
をうむちうをおいてやあう。深さく おやどちいい。ちよづる
屋ちんぶんぶんぶうだよきの式でん行村の主

でえらけりゃ高くたらぬんぬふりを出て二所目の
ちう(おまぐ)と呼れたよ。ぜんどこへいでゐれた。
サテ(おつせいりく)トなるつめる。本おいてい(く)おいてい
のうくりんご。深ぎく ろうちゃおいやもふきをこ
ぼしゐれた。本ヨヤたごつぐうとゐろんのへど
ゆこいふりんだ。深ぎく ちゃぎゃおあせんをのすそ面
くをいれたれまあるちをゐれ。本むごくちか
るのトリヤあいよでもちとそかてこちふ。深ぎく

てふづあらうまいて拭いでゐれ。ぎうくごちがい
ちて拭をのをゐんをの。本あんぬのよのよ。ちうあ
ゐのふのトよろみ。ちよづる 屋はきさんらうをまがか
るふあつも孫。深ぎく ちゃまあらそよいきつていさ
なちよづる さやておらんゐれをちとゐがまの日のよ
よづはうぐまいものでゐそぎをのすよ。ド
ひたらの拭がーをもげーてんあぐ。内でごちちゃさんまうけてゐれさ
ゐれゐれいよ。深ぎく ちらげきゆーどんよこて

おもらいなれ。【ちよぐ】それなこまのよ者ろんをとて
ヨいまとこまんよつ彼ら拵あ十ぴんよ角かれ
孫なで付孫つんぐが孫らんかうてあらんのち
で拵す孫い。【深ぎく】そしてあのがうまぐもさ。【ちよぐ】
きいまとそうだ。ひけをうちひれ孫ろあす
ことあれ（トおであく入遠。【ホ】濡ぎくこんの拵ぐきて紙下をりく。）
なこてう。【深ぎく】よ今る妻ぐよああけあれた
孫。【ホ】そんなうてうちうてらのびのちょん

くまくらいの孫いのさ。（トちをひたいをもんで
えんぐーなこ孫。【深ぎく】ぐんであげいあのーお
やまーやおあろい河く彼ぐ拵すよ。【ホ】かくろと
いあ家る孫ぬさあた。【深ぎく】ドレとてたのげん
ちよう。それあこんん。（トにのもたのめつぶをれ。）【ホ】こまやあ対
をする対のよのんさ。【深ぎく】ほんあうあんせん。【ホ】
いうらうさうもあれこうらさ。とえりあの
琴ぐこだの。【深ぎく】ちらんのぐきでおす。【ホ】

ゆうげんをこうこうこうたちもちをぷらぷらぶらぶらせんせんせんせんせん

深ぎく　なのれぐまつてあきてあんぴん夜ぐらすぐ

あるくいまよ。本　うるてこいあいさおいのいのく

ろいはやおおんあれ孫いおれ孫仕立まやおく

まれ孫いは孫だろう。深ぎく　それぐまよつてだまつて

孫れ。ちもこちらをむいてまくまれいせん

よまだまつて孫いまう。本　これさあ孫るらぐ

ぬちをむきなよ。深ぎく　なんでもをきいてあるぐ。

だまつてわつこてちなもー。本　ムシいくくあるとぐそいく

ートひとをひたをいろちふぐ。あんのちをれが深ぎくいすやくく深

ひきのちとぐけんのひつそーーつまつておくくかまちらすちはつのひ

ようしまかきくくやよういざあのひやくくところ。湯の中あでき

をぐ宿のうあれようぐけぐこあいで深ぎくぐせあかをちまう。本

なぐこいをだいて意ちふ孫ちとおきてうれの

うこいあののひろぐこあちあてからあ孫いこれ

ふぐまんせんせいく。深ぎく　ちぐこれ孫れ　ぬぐそふ

も孫むちてありへせんで孫ちうでふあ　あぐく

いまちら孫ちておんれ。本　あるれぐらせる

りんだのちゃとそのがあるよ 漆く あれさぐく
まちをふ舞。だらしい。 木 ぞうらーうらてもく
よ 深ぎは ちゃなな えで。あつ亀いぞうふ川。 木 ぞうと。
むろありのちさもまるまもまるまよりろくあるー

○武ざ

あすぎうらの鶴ぞえのの小紬。ぞらうめんの羽織よなれもち
ひとかりんをうけ。ひさのうちをとをふ
うもの町のあうちをちうくうんてあつとうたうちうち
たりて。ん町でとぞあをふんぞうくしうをうとふ
こひけまらあ。 武ざ うれうりのアリかなうんて
まぐれをのぞき

ハまくの人

見えぞまくふ人ちがぎ付ぞ。ぞうくして
ぞをうけぞたり。ぞしてさくと
ぞあるハ。ぞあるありぞうくうんと
したるうりニつあり。ぞい
ぞのてぞうられたと
きかどいあるよや
あるんをうくるる
ありぞ火ぞちるどい
ちりてりあるい新
あるハぞんふくるーき
ことたるありぞある。ぞりのくるハ。
よびにいとおりの我をあひとうこ。ぞ
夜の一発ぞうり来るぞんぞ。ぞんぞ寄の
りある時ハぞふもとめられぬりのとぞ糸よかうちぬ。

あるであらかどふだや。【若ものへ】わかでござります。【ぶ】ぶとゝけせぬ。【長老】ほんにかざりもちぞござります。トいはれぎよつくり。【ぶ】そんならおのゝおの中がどふでたら、ひてわくであれ。【若者】あてしの箱を（たいせつなる太切をふはあまこしをひれぜひしきく）わるがきれだまりのごとく。若者れぞこぶんをあらさずてあれ、よろこぶされてゆく。そば羽織を袖にこらしてきた。ちらぬきてるところへあいれすこのほまくらのかたへ、なからでるひをまめながら。これ、ふなふぞで。【ぶ】ホイ 大事の箱を【若者】おもてをさらくだす。【ぶ】鉄炮をするかまへ、おてめにかたくのん。でてお侍のこゝへ、ゆかなかれたちを。トつころひとの（侍）の口ひきへてあをそうけたそう たべこしあか【若者】

ちよとのめやてはよまゐらふ。【ぶ】うけあふたわ、風なるかれどぶふる。とあつとの御猪ちよとけんどまゐらう。【侍の口】おさきにあげしておまう。【ぶ】まづ。ドレおまへをといただかう。【まへの人】これへおくんなんし。【ぶ】ハテさてわるいこそれ、いふおつでもおかる稀。【侍の人】いらてふりはせん。【ぶ】それでもたのむるとこそでわがるだろう。【侍の人】おや、だらりい。【若者】おあまりとドなてゆく。稀つかそしじま、らぬむだいさのよふす。武ぶてきのこまんはまでひかけれる。手がかをとるぶあそし。のぶつち。【侍の人】これそのよや。

ふ　いやはあるまい
なかくばらなんでやて。ぶろ　なまこらんぷ。
こーかん。伝の丈　ひさんまだいかるら。ぶろ　あい
まぐまいでかんを。伝の丈　そんならのいのやこを
らいてあげんをらら。ぶ　ぶんまとげてかんぶ
ーとらってさそうやら。あいとのむろい　ぶ　まぐまどかりぐ
ら。ぶ　まぐまどかりぐ　ぶ　なあち
んと年だいきをかとーびろのるかりーまりてどこをとる
とるものかーー伝の丈　ぶろいるかりーまりてどこをとる
うんかりがた山橋とかるひのかり。

れんをこのうこの現年をかりて
あんとうこのかりてあり。とみをさ。ぶ　あちこ
ぶ　用だんの丈
とうんうけやれがれすんぶららと祿のまくい
どぶだやな。伝の丈　まあ舞でかのそれいい
ぶ　ぶ
ぶ　ぶ
年でも百年でもまつてあるぶやて。ぶ
せあて祿やる月だかもぶちーまらまの
こらずてまたひとを祿よりあるぞやり
伝の丈　ぶ
ぶ　ぶ

でゐる。 侍の一 ゐんでござんすと。 家来 かしこまつた。 侍の二 ちんよう。 家来 そりやからうて
さんざ[illegible]ひたよ。 侍の二 ちんよう。 家来 そりやからうて
られるとは。 侍の二 いやいとまをもらうたらあつかるる
めてゐいでゐる。 侍の二 いやいとまをもらうたらあつかるる
[illegible]をまきりゐひどこをどふかおいさつもおくおくの[illegible]おて
いかく。[illegible]さつはぱちちのおいらん[illegible]ん[illegible]
こかーまくを二巻のくくちをつらぬくれどおくさつまもぶ
ちりてゆくこまのるくなるこころろうかちをさくあるきも
[illegible]とたぬき屋今それまあらで。 ぶ これく。 禅ず
ハイ。 ぶ 火でもらやてもあい。

身が世帯がどもれ。 禅ず そこに[illegible]のとくでござ
つまます。 ぶ イヤくだい一世ふぐもの[illegible]
さくつをのえきまぐをつけれよまさこくで
自ていてこのうへ[illegible]びよいくらあ
ふうげもうれちものてこあ大切の金銀の[illegible]
てをまあくされて[illegible]ん
ならぬこくだちあ 禅ず [illegible]でいく名まもたく
がいくよまいくまきあくうらう。 ぶ そんならか

こひとゑをさらひてみりやれ。[説弁]りつどあらまは
しれ。ドおてやく覚ば太鼓ま出て門だらりでちくしている芝。
伝の記をたのがしでりはをあそぎ。おがし屏風を所て
[伝の丞]チヱヘ身分孫かれたろ。[ぶ]うれハ神会のさあ
くをかぜまをゑまつま神かるかふゝる。トねびきをもめえしておよまき
すう。[伝の丞]ぜちやいりハハッまいでおきされもも遥
てあの国丁まへいつでつるい猫がらくしもときさて
つちがとこへおいぞかれを三弁く藪んがぜんど
見をたらいつかれかれたときト云てぐへろりとなる[ぶ]鐘

おきがつゝとある二貫ぢやがかりろくもねるまへ
て[伝の丞]かぜ三郎さまさつまりかれた事があり
いまならかねしかれ。それともまくさうん
みんなからずがどふでもきなかれ。[ぶ]どふそつて
これがどふかるのれじや。[伝の丞]おまえさんのなにかしとつくるかみをそろの
よふなそらをおもふかれもむぞうらへ。てやかまう
かれちふらふことさ。ドひざをたゝきをつけられきげんよくなる。大音字うら
いつそのりせてかいぞかれもきかくまれがせん

どうしてもとうてあるきあんれたのさ。それ
ぐさらひて袴ぎ者のまんをどふのこてのと
いもそこうちもこみ（こま）のあんくはたのこいせんけをと
やはらぐひものの重もるーこのこうてのう
だいいぐされぐづいぐーきをあけいたのさ。
こんなのようちたのけて出こうかげーこ
なんあるーぐりつのらいまんもいそ長谷の
どくそれなどふとはもてあびはたいあまで

いたれあるこんあるもいだぐ出ぐまあ
ていたれぐるはちぽまこ主のこうをこう
て抜こんなんなんをこうはふいあるいせん。（どあの色い
れとあるでこうむよある。ぶ そのるまいてこのあ
けられるこいあらず。ぶ
いこあそれ入て 仮名の人 こんまんそあこんをこ
ぶ。ぶ こんまん抜いでどふするりんどやをんでこ
ちこ
つく 仮名の人 それぐやこうこうでこうあいせん。
まぐ抜このはいもごとぐ抜ぐんそそれる

ひつこいさへくざんでげつそよいさんでおもしろふしく
てなりんせんからちよつと都をだしてさいふざ
んせぶよふ世ざんせう［ぶ］それ銭などさすも。［但の人］
そんならちよつといつてまいりおせう。いつそむ
きいもうら。夜着をよせてちよつと蒲団をこさ
て抱いでおくれ。屋なんぞとときていせんかよ。

ト世こふのならぬことをいいながら皇銀をもつておでてしき
いらん女郎を起さゝせまいれぬの志ん身あつけらんでふこし気も。
きちたいくつのあくびと居んど枕もとのたるかこらへおかしぶらと
さしあく今やくとまち兼てとうらそうりの音をだまれんて。

うらやましくもどかしさ［そ］のむつごとは血をきゝてのいひさ
のおとづれ夜ながれ附と見えしを月見ればさらかをあけてのらかきかう
カアくと羽織のふところちよつとよんが一夜明けまでさぶひ。おおくるしたかし。

○きをい

どふらくものといはれれがるてあいま藝さ人のとゞ孫がおふとのふさら
やさ。家こぢんのめんちよとのあしをすぱよあてこのうらおイかとうけでび
藥さやのさぞそまゐ匠まかみ。どま身すの袖口大あられのちりめんのひ
とへ羽織と七ぶどあるりんこ（？）のちよんがけのひも五一服揚のとも先い
がいらんふある生きせんの若きを待ちさてぶれせ抱かいでぶらきさ
とうまられて羽織を抱きいちはれかだてあくてんをさいぬさ膳
のさいるく匠より取りさをあしたけしてゐたをいなりいく［若衆］匠ど
ぬまざーさもあかさまそぞとこのうちは大あぐら。ぐめ
れでいゝよあんこころあい［金］あかされというさうち。

へうめさま

からいひきいさまをよべしぞれも
あるりまとおりへ世話あるべ。
まとひものいたさぬ
うちごろ
うらり
だてそう
なとい性
あさめ
あれべそ
こぶまりして名代をとるべし時はぜひうら
やくそくをすべしまた月立なをつよそう
世ふへあるりてろよらあすのあれぞんでま
よいへれさしあいをして。河さろきまちがあるぶ。
らぶあらでがあろれあとくいふせりふ去名屋

巻去 おこまあらあらあら 金 おやのがれいやだよ。
てらが大阪のうらでもあらうのりのとしと
ふあ。ふらでもあ。稲いことてすまうちや
あやるめいりでも稲いがでい一ちなのあふのは
うちがあまるふ稲いあ稲いまうぽうとうえ
れうらぽうでもまたでるべでてやらあ今ア
あきの稲さんがあ。ちぽまあたとふふうでぷん
とまあまあてい。ふまあてられるもすま

すいぶんでもらく(り)まぢって来やあぶけた
がたく稲いけるやあぶ毎稲いよ。[若衆]こん
ぢんのあんがいるこてこうるとまぜんとやわんで
ぐぎるとまずらぶふぢ(ひ)ーあぐひを(ひ糸)ぐまるず。[金]ちよいい
でもせんいでも。畠(おかた)ぢ(まち)ぢ畑だとあい稲いる。(はた)
よなるあよつとあるみ稲いもせんちうだで
めいも赤ちう麦い麦のまるいりんぐぶむやあこと
ともいふのい。もあをまよ。ぢんまとまて麦

麦い。[若衆]これいなるぐだたぐぎるとまずるめふし
せんむけまたらぶてるらいてまいりまるちう。
ト立てやきぶてらしさぐきとりて麦ちうかちやをひいた
ゆふぶよとられたるふ新でぶとて産よあるる麦ちも
まんでぶ。[若]さよふなるらぶ抑すくあるれませ
ト赤ちゆくたぐらくえなるの。[金]てあいもとんぐぶ
糸ぐんであるちきりりみあぐ。
まんまうちなのんぢぐうるうのるんまとよ新
だぜいなかちをまよ一らのの稲いう。[若衆]と
のこ麦いいうをまけぐぶんでいれれう

らいのまいもありんせん。金へこの面白(でう)んぶ。あきく
なるよご。金ありがとうぞのいの面のそのとものご。
こまをとをこうら。亀ぎく いうげんまおごんなん
しらちをを藤(ふじ)なんせんう。金 ゆれぐからだ
まやおごまおぐれ。ーごとうぶいているう。
あったよ藤ごだあるら稲い。亀ぎく そのや
あとありあんなのんぶ稲いそれぶやあそび
ままなんーだ対ごあうあんまぐらう。金 うさ

あ稲のーだぐ言なられなゆんもなるとの
ようくこのあまぶといふゆふだのどまられた
うぐまこれよあれよ風れてよっぴと稲ずまっとある
ぶ。なのかてしぶやあ稲いう。亀ぎく そのゆふぐうん
とあらとぴいるとをを乗てとぴちらぐ用のゆふ
しあいゆりあくも稲いそぐ。金 ゆふうもも言
ぐうこくこるぐ丁のゆ節ーもりんぐなこるぶい
らぐ言ぐきいぶやあぐるぴうぶぐそら稲い。

てふ博(だう)のゑびをそこなはれたと者やあぞう
いとるあ稲い。【亀ぎく】ゑびをうれものの買うとのを
らいてたがごとらいかど買ていなんを稲い。【金】
十二 あいつも拙ゑなやあるよ。【亀ぎく】いぢのつるい
りちとそちんをつておこんれ。【金】てあいの者(たな)
おこてをすまやあの稲いぶそかよひようなげい
せいだのぞぬいとのゑ〳〵けいとゑんぶ。【ゑぎく】
うらあておいておこんれをんなのゑるい

りあんせん貝ゑ子ゑ家ぞおあんなんれた【金】で
けあやきたとかるてぞぶゑをのをいた所
ぐそのへのゑをげ馬くきいゑくぞるのゑのゑ
よゑるびゑまひるゑうぞぎの都ゑゑ玉いも
ぐあくひをたとゑ家。ぞんぶ貝ぶまをとき
の之(たち)あぜゑとゑ泉(えんな)ぞんぶぐちゑとゑ
ぬ。ぞんめぐどゑぶぐ稲このやねゑうとゑ
ぶ。ぞんめぐゑぶぐきのに金(こがね)とぶゑ

てんぷらだんめうまぐろまんぐんらいらいあげて
ゑんところぶぢ。あ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶちやのふ(ぶ)ぶすだ。
ちやあ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。(たか)ぶ(ぶ)ぶらのふ(ぶ)ぶ(こひそらうん)ぶ(ぶ)ぶといふ(ぶ)ぶ
つきだ。[あぶく]とんだぬやあ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。[金]ぶ(ぶ)ぶやあ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。[金]ぶ(ぶ)ぶやあ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。[金]ぶ(ぶ)ぶ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。[金]ぶ(ぶ)ぶ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。[金]ぶ(ぶ)ぶ

それはよつてぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。[あぶく]ぶ(ぶ)ぶ。[あぶく]ぶ(ぶ)ぶ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。[金]ぶ(ぶ)ぶ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ
ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ぶ。ぶ(ぶ)ぶ

つれの。「八」なぞかきそへているら。「金」ゆふべはどふされた「八」大
よらいだ。げじ旦那をいきはこちらへとのりが
きて。のひとそろへ。ごふのつきよ。ところがさ
ろんかりがはらをするやうなされるよ。ふまらぬさ
だあがわるくてぶ。どぶさつてこらるらあ。ねへ
ちきあわずんだ。「金」それみな。ねんやめのおかとな
あしたりんごらかきとこんかゞよなかせ
らおかんでもあそびやおおわるくいへられると。

たげさげあやあ大ぜいなちらいぶとてせんたじまは
ら稼せんぶだり。よいく寝い。「八」まずてまくら
だ。「金」きまのよしないや稼てだ。ゆふといふよま
とぶさるが。きまのきひたけのあしなからの
つてひろむまぶんだ。どきんをなげていちくせうだぞん
やあつてまへせい。「八」これじやお伊勢屋のれ
てめいも。たのきおもゑ稼い。「金」そんなとこじやあ稼
いだのかるくなるとぞちぶねれることともねい。

ト部ひをこまかくしてさすると。[あぎく]なんぎんでるいぼい
ぼをくるくるまきかこす。[金]いのいのしんぞんな湯うんだ色
たらいめてきれ。ト部をそる。毒ぎくふぶきうぶせうる
をまはれをたのはいろうつんである中でたたぎかと
るをと金かりふるあけることおもて[高]きのあ人紙おけた紙で
大ぎんぎんぶ[ゆく]なまあぎこだ物う[金]毒ら
ぎうめあ毒あらうのでけんけんぶ。ト部でたいくん八毒
[あぎく]えんとんけんなんまをよせ毒あんぶけいりな
さるまよ。ヒらいめ。ねんぐ年を二ッ三ッしてなるらな
毒をらあぎ。毒ぎりをひを毒あぎ。毒ぎりを毒ス。[八]ふらい

りのもいてぐ毒ぞ泳いだ。[金]ぐけりめぞろへぐ。
きいてりのきをる。[あぎく]こあるる[金]ぐけりるもん
ぐ。ト部ぐりをガラくぐそとよたぐねそいるをつぐ
をありよさ毒ふむと。(大)キャンく[金]ヱてちく
毒ちるの。[八]ゆうゆう唄[可]ゆうゆう。ゆうるのゆうぐさ
をちぐゆりれどおをるぐげれのゆうぐでもきあるさ
るのこくさらく。[金]まちやちなもちのあくあん
きうる。[八]うあら移ひ。毒ゆのぐくてんこれられ
ぐくゆ。ぐまくうあきうあ花よあらとゆらゆ
のぐちくとんなりぬ。

その美

そなび
そめぎ

ふんとつんとしてすまし顔。ぶてようきげんよう
おきゃうなりをなどハ。ぶきはよりんーる、
ありてゐけいそきよふあれとぱらを
せずまたらびとけんと
ゐるりよちんいふも
してとなりふりの
あてとうふりの
ぢーぐぢーぐいふも
ひまをとらす。二ゐぢーで
こゐとらまるはとなれば。
あまりあいちよのまんハよりうぬ
りのあり。ちよいまきをくを
ろるときハぐゐろうまとろ
から事あり。ぢかくのごとくまをつけ。

○いろきく

もこーもぢであいびろーとのもうきつむきまぢいさをゐ八ぢのト
ゐ京京羽二重の羽織はひらーちもひいりのだとりまぢ
つまで京のゐ、ちのひもまふところの角のとれた毒人ひさしき
いろきくゐりしごのごろうちにのうあーまりて角ーきのうち
ゐれびいまうルとちて面い茶ゐ
いふ三重でいる三重でのまうきいからふたかいさをうちゐう未
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しそ。婆のそでなりれ。【孝】ちゝも強とさあるなら
ろくへおるやまきそゞけりのぞかし【悦】てきろ
そうろ。【悦】さうらきいを。ドいおぐゝびさまもたれて ちやく強いる事だなろて
ひとくぶをあけつん 返れなもいれで。【其の巻】そあじさやお強いゝだの酒る
してどうてまいるジヤ酒をのんだの。【悦】それから
とつて。うか女さんのきかくんらむ。ぴなまのおとなり
せいしたら。【其の巻】そのおかみやおかみのさつてモウ
とつくまうりなさるれまよ。そあじいおきてまくえそらく そかおくだまつている人

【うき花】きんそう 親のらんちゝとさてを恍しかれ。【其の巻】
あれは女ものよ女かりぞなりま志かれはぞとぞい
せんさるとまでおそおきみれ。【うき花】ないトおいにおの
勘名をとりて 悦りん 悦季さんおきすこかれ。トおいこおく【孝】うるさい
そうよとが猫のさぶつをまろうり。八ツあろう
おするて母でいの事があるなるさへぞり以く
【其の巻】なんぞへぞしうらい。おかまも魚がそちらたる
てなんぞとこへおつせんおかいほどみふてるをつか

まいたるよそれはあつたり。二十貫あまりでゐん
したがあのあつせんら。園てあいもあつぽどこま
のせあいかんぐ。蚕のつれ多いもするあれたりの
をおりふりいかぐさこよ。地神けいもありうち
のこつぐ。[illegible]てあるるんなれ。そんあ情のね
いあんとこれおもいせんでいまこまびとけ申
いあるぐ。[illegible]ゆんだようひこびこけるを
さまぐいコレこたのまいてうるぐ。ゆすくされちや

あのいうんあくの虫ぐふせうちぐよりあれぐ
二十貫よりの物ごとぐでこれたもあつ。二階ぢう
でらあるるれどのふるりがたかをいる
さら年たのあいもあつて色ごけでばい
ぶんもよそれる年ぢりやあだるあいうぎ法
うちの一部屋ぐ。ぜうを[illegible]て[illegible]
なあまをいて立よぐれて[illegible]の[illegible]ぐん
くうさとるらい。[illegible]あれれ事よりかしして

つきだされちやアわが悪事まさんといふ地名がす
なるへ[客の答]そんなら身をひきまをしりあん
まづ初の字あらうこねハ名号へ志いせん
トなまみかおらくしまらけて手を拱ある　[李]これまんなるさ
泪まさすがつゝくもいつされす。
が地れかよつ伴とふし　お目せなのんだびをて
めいよい縁でとがでれてどんがむ娘ら縁い
自まおおふをふ多女もあるみず内よいりや子
どものやうきいの江の京のまん言新じやあ

縁ひが恋めのせうさやかのやらや。志こらが付うち
お手するうちもごろもちの事が字まるやとそれは
てあいの手本あきがかふおし付だとおめ舌あ女
意の龍がふびんまつん、とん顔あひ気ちを志
目ぶかてあれれ女房のつんしを志るらね
のわるぶてこともうん々てあい喜へだコヲのろい金
をもてくられ覚悟をして口をきけ。まふとの
世のひと家でいだぞ。[客の答]そよおめひあれもれ

そんなものをのまうと、さいぜんからぐ
ぐいぶつぶつ物ざつをとゝ（ド淚）。東うれうまいてゞ
ぶるそんだアノやろうぶ強人をいのんでやき
まつけをぞんざいてひつれなるものを
東の巻 ちそんなことをいつせいすおこん夜いを
とられぞうのそだのやまるいそうめたらど
ふそゝんでそんれ。東なのいつきでも移いて
めいをのびいぐらくまやわいてい移いば

ちうあるぞよ。東の巻それたまのてだのやうゲ
いたとゆいをいをふまあこちをおむうちあん
しぐれさくだれつるすゝ。東いをきうら
そうちゝむうれるのんう。東の巻ふすぞそん
あゝふあいをゝ人京のうな。東あんぶこま
のちぐゝ者のふまゝらくをうそいふゝ
つひそうをたゝあるゝ大まうれ附ふをこ
らやぞりそいの。東の巻ゝまあこのちあれ。木子

こふのうてうしとけてうれいたうしゆねい
うぐれこ年のうち二度こ二階ぎさんを
しれなかぐのの和尚理もいぶんちいろいな
ちおやあ孫い。[illegible]の巻 ろんよなくあんでかつちう
よこれもいどが母てうこるうかろうことぎ[illegible]
せてうこるゆいだがしれ。[illegible]巻二十一回のゆうしい
ぐ。[illegible] ふろやすうれ。おうくうしたのひやしこ手ろちくくしうそう
ゆふたりのぐりのあくきうこひろり下ぶいあるるくだてうあの
こ句けりうゆの町(ろりよのてゆいのうりとんてんざいこんで

くせつの鶴をうちあげ。江戸ブシ へるの夜を夢で
のうちのうさぎはきすぎる。
うりとのうらくあるようにうを。
うと孫のあのようアとえ
ともうすれてあとのものかりひ。[illegible] あるとて
いく。[illegible]なりの掛[illegible]ぜつの[illegible]
なぜの虫の[illegible]
めよ[illegible]百人ずいもあいも[illegible]
もうぬがれふらちまされてプ又らぬこと[illegible]
ふもあくずうろのあいゆもあてあて男あり。
かれるよ[illegible]男たう。死ぬかとの[illegible]
ちりへべれちまちはきだ[illegible]
あるもうれあいは。そうと[illegible]

まで[illegible]もあり。実なるまゝとふたら
わらぬとれ。糸傳ふ[illegible]
[illegible]化して[illegible]
[illegible]の[illegible]入の反とすぐて作る
ごとし。

振路鴛亭戯著

自惚鏡跋

余友振路鴛の自惚鏡を作る。鏡
[illegible]抑俗ふあらば酒
糟死蓋あるべからざるを乃ち
自惚鏡の事。吁之が德を數ふ
章臺の趣、誠後家。實小酒屋ぶれ

天下一印以て四日市北南總舘に
あるべし跋ゆよりこれを出して畫
其面へ多鏡安忍義志西哉
志のわり。

童候多藏題

忍鏡跋

先生常に云ふ竭家を傾て義人
を養ふを忍と云人を忍ぶ
ならんべ誰を名目とせんと世人
こぞて極里へ新へ和中宜哉此
言まこと川柳点に容の忍を

拵女の後櫛と笄又ハ懐紙
をもつて城琴の匂ひ通り
ゐるもんせいなるの洗小桶と枕とし
眠ハ枕ハ[illegible]の上ハ西向
夢を知らぬ大通ふ[illegible]事
三挺立まつて姫人[illegible]

豈早くもぎんや

天明九乃酉巳

諸訣石知人述

○目録　板元　江戸堺町四丁目　多田屋利兵衛

廓乃大帳
婦美車紫齋
廓中奇譚
辰巳丸園
遊子方言
美地之畠志
南閨雜話
かよふ神の講釈

格子戯語
記原情語
繁千話
くし屋猿
嘲笑忠臣蔵

自惚鏡
俗諺諺草
宮腰帯雑話
月下清談 五冊
清美門答 五冊